まるごと備後

備後の地域資源タッグ

府中桐箱で保命酒輝く

江戸末期の仕様を再現

地域資源活用促進法に基づく地域資源である府中市の「府中桐箱」メーカーが、同じく福山市の地域資源「保命酒」の献上用に使われた江戸時代末期の木製箱を再現した。七月に東京都である展示会にセットで出展する。

再現したのは保命酒のとっくりを収める箱で、当時キリやヒノキで作られていた。将軍家などに献上する際に使われたという。浦上桐工芸（府中市出口町）が、保命酒製造の岡本亀太郎本店（福山市鞆町）が保管する実物を基に製作した。

実物より一回り小さい高さ三五・五センチ、奥行き、幅各一四センチ。実物同様、取っ手部分には素材を組み込む技術を採用し、とっくりを出し入れする口は落とし戸とした。「くぎは一切使わず、ほぼ手作業で忠実に仕上げた」と浦上利平社長（69）。同本店の岡本良知専務（39）は「展示会で、伝統ある保命酒のイメージ付けにひと役買ってくれそう」と喜ぶ。

中小企業基盤整備機構が七月、都内のテストマーケティングショップ「Rin」で開く展示会には、地域資源を使った事業展開などに取り組む中国地方の十七社・団体が出展する。備後地方からは同本店が参加し、同本店も加盟する備後特産品研究会の企画で「府中桐箱」とのコラボレーションが実現した。

展示会に同行する同研究会の中島基晴会長（40）は「備後の地域資源を全国にアピールする絶好の機会。地域の活性化につなげたい」と意気込んでいる。

（松本恭治）

江戸時代末期の箱（右側）を再現し、中島会長㊨に説明する浦上社長

クリック

地域資源活用促進法　正式名は「中小企業による地域産業資源を活用した事業活動の促進に関する法律」。47都道府県がそれぞれ作成する基本構想に沿って、農林水産物、産地の技術、観光資源から地域資源を指定し、国が認定している。地域資源の活用やブランド化を国が支援する。